

1

解答解説のページへ

空間内にある半径 1 の球（内部を含む）を B とする。直線 l と B が交わっており、その交わりは長さ $\sqrt{3}$ の線分である。

- (1) B の中心と l との距離を求めよ。
- (2) l のまわりに B を 1 回転してできる立体の体積を求めよ。

2

解答解説のページへ

実数 t に対して 2 点 $P(t, t^2)$, $Q(t+1, (t+1)^2)$ を考える。 t が $-1 \leq t \leq 0$ の範囲を動くとき、線分 PQ が通過してできる図形を図示し、その面積を求めよ。

3

解答解説のページへ

xy 平面の $y \geq 0$ の部分にあり、 x 軸に接する円の列 C_1, C_2, C_3, \dots を次のように定める。

- ・ C_1 と C_2 は半径 1 の円で、互いに外接する。
- ・ 正の整数 n に対し、 C_{n+2} は C_n と C_{n+1} に外接し、 C_n と C_{n+1} の弧および x 軸で囲まれる部分にある。

円 C_n の半径を r_n とする。

- (1) 等式 $\frac{1}{\sqrt{r_{n+2}}} = \frac{1}{\sqrt{r_n}} + \frac{1}{\sqrt{r_{n+1}}}$ を示せ。
- (2) すべての正の整数 n に対して $\frac{1}{\sqrt{r_n}} = s\alpha^n + t\beta^n$ が成り立つように、 n によらない定数 α, β, s, t の値を一組与えよ。
- (3) $n \rightarrow \infty$ のとき数列 $\left\{ \frac{r_n}{k^n} \right\}$ が正の値に収束するように実数 k の値を定め、そのときの極限值を求めよ。

4

解答解説のページへ

負でない整数 N が与えられたとき、 $a_1 = N$ 、 $a_{n+1} = \left[\frac{a_n}{2} \right]$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) として数列 $\{a_n\}$ を定める。ただし $[a]$ は、実数 a の整数部分 ($k \leq a < k+1$ となる整数 k) を表す。

- (1) $a_3 = 1$ となるような N をすべて求めよ。
- (2) $0 \leq N < 2^{10}$ を満たす整数 N のうちで、 N から定まる数列 $\{a_n\}$ のある項が 2 となるようなものはいくつあるか。
- (3) 0 から $2^{100} - 1$ までの 2^{100} 個の整数から等しい確率で N を選び、数列 $\{a_n\}$ を定める。次の条件(*)を満たす最小の正の整数 m を求めよ。
 (*) 数列 $\{a_n\}$ のある項が m となる確率が $\frac{1}{100}$ 以下となる。

1

問題のページへ

(1) 半径 1 の球 B の中心から直線 l に垂線を下ろすと、その足は長さ $\sqrt{3}$ の線分の midpoint となり、 B の中心と l との距離 d は、

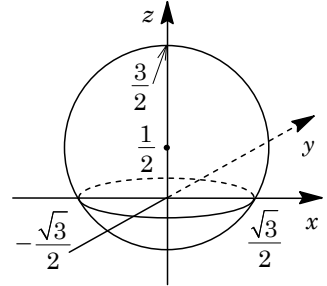
$$d = \sqrt{1^2 - \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2} = \frac{1}{2}$$

(2) 直線 l を x 軸とすると、(1) から B の球面は、

$$x^2 + y^2 + \left(z - \frac{1}{2}\right)^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

さて、 B を x 軸に垂直な平面 $x = k \cdots \cdots \textcircled{2}$ で切断したときの断面は、 $\textcircled{1}\textcircled{2}$ を連立して、

$$y^2 + \left(z - \frac{1}{2}\right)^2 = 1 - k^2$$



これより、断面は平面 $x = k$ 上で、点 $(k, 0, \frac{1}{2})$ を中心とする半径 $\sqrt{1 - k^2}$ の円であることがわかる。なお、 yz 平面に関する対称性より、以下、 $0 \leq k \leq 1$ で考える。

(i) $0 \leq k \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$ のとき

断面を平面 $x = k$ 上で、 x 軸のまわりに 1 回転すると、半径 $\frac{1}{2} + \sqrt{1 - k^2}$ の円板となり、その面積 $S(k)$ は、

$$S(k) = \pi \left(\frac{1}{2} + \sqrt{1 - k^2}\right)^2 = \pi \left(\frac{5}{4} - k^2 + \sqrt{1 - k^2}\right)$$

(ii) $\frac{\sqrt{3}}{2} \leq k \leq 1$ のとき

断面を平面 $x = k$ 上で、 x 軸のまわりに 1 回転すると、外径 $\frac{1}{2} + \sqrt{1 - k^2}$ で内径 $\frac{1}{2} - \sqrt{1 - k^2}$ のドーナツ形となり、その面積 $S(k)$ は、

$$S(k) = \pi \left(\frac{1}{2} + \sqrt{1 - k^2}\right)^2 - \pi \left(\frac{1}{2} - \sqrt{1 - k^2}\right)^2 = 2\pi\sqrt{1 - k^2}$$

(i)(ii) より、求める立体の体積を V とすると、対称性を考えて、

$$\begin{aligned} V &= 2\pi \int_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \left(\frac{5}{4} - k^2 + \sqrt{1 - k^2}\right) dk + 2\pi \int_{\frac{\sqrt{3}}{2}}^1 2\sqrt{1 - k^2} dk \\ &= 2\pi \left[\frac{5}{4}k - \frac{k^3}{3} \right]_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} + 2\pi \left(\frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \frac{\pi}{3} + \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{1}{2} \right) + 4\pi \left(\frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \frac{\pi}{6} - \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{1}{2} \right) \\ &= \sqrt{3}\pi + \pi \left(\frac{\pi}{3} + \frac{\sqrt{3}}{4} \right) + \pi \left(\frac{\pi}{3} - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) = \pi \left(\frac{2\pi}{3} + \frac{3\sqrt{3}}{4} \right) \end{aligned}$$

[解説]

立体の回転体の求積についての頻出問題です。要演習の 1 題です。

2

問題のページへ

2点 $P(t, t^2)$, $Q(t+1, (t+1)^2)$ を通る直線 l の方程式は,

$$y - t^2 = \frac{(t+1)^2 - t^2}{(t+1) - t}(x - t), \quad y = (2t+1)x - t^2 - t \cdots \cdots (*)$$

まず, (*) の x の値を $x = a$ と固定し, y のとり得る値の範囲を求める。

ここで, $y = f(t)$ とおくと,

$$f(t) = (2t+1)a - t^2 - t = -t^2 + (2a-1)t + a = -\left(t - \frac{2a-1}{2}\right)^2 + a^2 + \frac{1}{4}$$

さて, t が $-1 \leq t \leq 0$ の範囲を動くとき,

(i) $a \leq -\frac{1}{2}$ のとき $a = f(0) \leq f(t) \leq f(-1) = -a$

(ii) $-\frac{1}{2} \leq a \leq 0$ のとき $a = f(0) \leq f(t) \leq f\left(\frac{2a-1}{2}\right) = a^2 + \frac{1}{4}$

(iii) $0 \leq a \leq \frac{1}{2}$ のとき $-a = f(-1) \leq f(t) \leq f\left(\frac{2a-1}{2}\right) = a^2 + \frac{1}{4}$

(iv) $a \geq \frac{1}{2}$ のとき $-a = f(-1) \leq f(t) \leq f(0) = a$

(i)~(iv) より, 直線 l が通過してできる領域は,

$$x \leq y \leq -x \quad \left(x \leq -\frac{1}{2} \text{ のとき}\right), \quad x \leq y \leq x^2 + \frac{1}{4} \quad \left(-\frac{1}{2} \leq x \leq 0 \text{ のとき}\right)$$

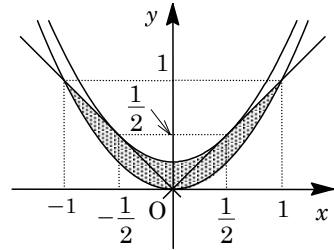
$$-x \leq y \leq x^2 + \frac{1}{4} \quad \left(0 \leq x \leq \frac{1}{2} \text{ のとき}\right), \quad -x \leq y \leq x \quad \left(x \geq \frac{1}{2} \text{ のとき}\right)$$

これを利用すると, 線分 PQ が通過してできる図形は, 直線 l が通過してできる領域の放物線 $y = x^2$ の上側にある部分なので, 図示すると

右図の網点部である。ただし, 境界は領域に含む。この

図形の面積 S は, y 軸に関する対称性より,

$$\begin{aligned} S &= 2 \int_0^{\frac{1}{2}} \left(x^2 + \frac{1}{4} - x^2\right) dx + 2 \int_{\frac{1}{2}}^1 (x - x^2) dx \\ &= 2 \cdot \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{2} + 2 \left[\frac{x^2}{2} - \frac{x^3}{3} \right]_{\frac{1}{2}}^1 = \frac{1}{4} + \frac{3}{4} - \frac{7}{12} = \frac{5}{12} \end{aligned}$$



[解説]

線分の通過領域についての頻出問題です。文系と同一内容ですが, 理系では誘導が付いていません。

3

問題のページへ

- (1) 円 C_n, C_{n+1}, C_{n+2} の中心から x 軸に垂線を下ろし、その足をそれぞれ H_n, H_{n+1}, H_{n+2} とおくと、

$$\begin{aligned} H_n H_{n+1} &= \sqrt{(r_n + r_{n+1})^2 - (r_n - r_{n+1})^2} \\ &= 2\sqrt{r_n r_{n+1}} \end{aligned}$$

同様に、 $H_{n+1} H_{n+2} = 2\sqrt{r_{n+1} r_{n+2}}$

$$H_n H_{n+2} = 2\sqrt{r_n r_{n+2}}$$

すると、 $H_n H_{n+1} = H_{n+1} H_{n+2} + H_n H_{n+2}$ より、

$$2\sqrt{r_n r_{n+1}} = 2\sqrt{r_{n+1} r_{n+2}} + 2\sqrt{r_n r_{n+2}}$$

両辺を $2\sqrt{r_n r_{n+1} r_{n+2}}$ で割って、 $\frac{1}{\sqrt{r_{n+2}}} = \frac{1}{\sqrt{r_n}} + \frac{1}{\sqrt{r_{n+1}}}$ ……①

- (2) $\frac{1}{\sqrt{r_n}} = a_n$ とおくと、 $r_1 = r_2 = 1$ から $a_1 = a_2 = 1$ となり、①より、

$$a_{n+2} = a_n + a_{n+1}, \quad a_{n+2} - a_{n+1} - a_n = 0 \quad \text{……②}$$

ここで、2 次方程式 $x^2 - x - 1 = 0$ の 2 つの解を $x = p, q$ ($p < q$) とおくと、

$$p = \frac{1 - \sqrt{5}}{2}, \quad q = \frac{1 + \sqrt{5}}{2} \text{ となる。}$$

すると、②を変形して、 $a_{n+2} - p a_{n+1} = q(a_{n+1} - p a_n)$ から、

$$a_{n+1} - p a_n = (a_2 - p a_1) q^{n-1} = (1 - p) q^{n-1} = \frac{1 + \sqrt{5}}{2} q^{n-1} = q^n \quad \text{……③}$$

同様に、②より、 $a_{n+2} - q a_{n+1} = p(a_{n+1} - q a_n)$ となり、

$$a_{n+1} - q a_n = (a_2 - q a_1) p^{n-1} = (1 - q) p^{n-1} = \frac{1 - \sqrt{5}}{2} p^{n-1} = p^n \quad \text{……④}$$

③④より、 $(-p + q)a_n = -p^n + q^n$ から、 $a_n = -\frac{1}{\sqrt{5}} p^n + \frac{1}{\sqrt{5}} q^n$

すると、条件から $a_n = s\alpha^n + t\beta^n$ なので、定数 α, β, s, t の値の 1 つとして、

$$\alpha = p = \frac{1 - \sqrt{5}}{2}, \quad \beta = q = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}, \quad s = -\frac{1}{\sqrt{5}}, \quad t = \frac{1}{\sqrt{5}}$$

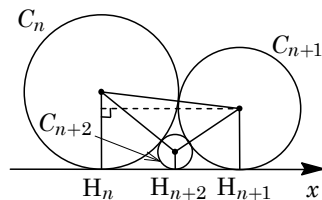
- (3) (2)より、 $r_n = \frac{1}{(s\alpha^n + t\beta^n)^2}$ より、 $\frac{r_n}{k^n} = \frac{1}{k^n (s\alpha^n + t\beta^n)^2}$

まず、 $k \leq 0$ のとき、明らかに $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{k^n}$ が正の値に収束する場合はない。

そこで、 $k > 0$ として、 $\frac{r_n}{k^n} = \frac{1}{\{s(\sqrt{k}\alpha)^n + t(\sqrt{k}\beta)^n\}^2}$

さて、 $|\alpha| < 1 < |\beta|$ より、 $|\sqrt{k}\alpha| < \sqrt{k} < |\sqrt{k}\beta| = \sqrt{k}\beta$ となり、

- (i) $\sqrt{k}\beta > 1$ のとき $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{k^n} = 0$ となり、正の値に収束しない。



(ii) $0 < \sqrt{k}\beta < 1$ のとき $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{k^n} = \infty$ となり, 正の値に収束しない。

(iii) $\sqrt{k}\beta = 1$ ($\sqrt{k} = \frac{1}{\beta}$) のとき

このとき, $\frac{r_n}{k^n} = \frac{1}{\left\{s\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)^n + t\right\}^2}$ となり, $\left|\frac{\alpha}{\beta}\right| < 1$ から, $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{k^n} = \frac{1}{t^2} = 5$

(i)~(iii)より, 数列 $\left\{\frac{r_n}{k^n}\right\}$ が正の値に収束するのは, $k = \frac{1}{\beta^2} = \frac{3-\sqrt{5}}{2}$ のときであ

り, このとき $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{k^n} = 5$ である。

[解説]

ときどき見かける有名な構図の問題で, (2)までは定番といってもよいものです。

4

問題のページへ

- (1) $a_1 = N \geq 0$, $a_{n+1} = \left\lfloor \frac{a_n}{2} \right\rfloor$ に対して, $a_3 = 1$ とすると, $\left\lfloor \frac{a_2}{2} \right\rfloor = 1$ から $a_2 = 2, 3$ すると, $a_2 = 2$ のとき $\left\lfloor \frac{a_1}{2} \right\rfloor = 2$ から $a_1 = 4, 5$, $a_2 = 3$ のとき $\left\lfloor \frac{a_1}{2} \right\rfloor = 3$ から $a_1 = 6, 7$ となり, まとめると, $a_1 = N = 4, 5, 6, 7$ である。

- (2) 一般的に, 負でない整数 i, j ($i < j$) に対して, $i \leq \left\lfloor \frac{x}{2} \right\rfloor < j$ を満たす整数 x は,

$$x = 2i, 2i+1, 2i+2, \dots, 2j-1$$

すなわち, $2i \leq x < 2j$ となり, $2j - 2i$ 個の x が存在する。

さて, ある正の整数 l に対して, $a_l = 2$ とすると, $a_{l-1} = 4, 5$ となり,

$$4 \leq a_{l-1} < 6, 8 \leq a_{l-2} < 12, 16 \leq a_{l-3} < 24, \dots, 2^l \leq a_1 < 3 \cdot 2^{l-1}$$

ここで, 条件から $0 \leq N < 2^{10}$ すなわち $0 \leq a_1 < 2^{10}$ より, $l = 1, 2, 3, \dots, 9$

よって, $a_l = 2$ となる整数 N の個数は,

$$\sum_{l=1}^9 (3 \cdot 2^{l-1} - 2^l) = \sum_{l=1}^9 2^{l-1} = \frac{2^9 - 1}{2 - 1} = 511$$

- (3) ある正の整数 l に対して, $a_l = m$ とすると, $a_{l-1} = 2m, 2m+1$ となり,

$$2m \leq a_{l-1} < 2(m+1), 4m \leq a_{l-2} < 4(m+1), \dots, 2^{l-1}m \leq a_1 < 2^{l-1}(m+1)$$

さて, $0 \leq N \leq 2^{100} - 1$ において, $2^{l-1}m \leq 2^{100} - 1 < 2^{l-1}(m+1) - 1$ と仮定すると,

$$m \leq 2^{101-l} - \frac{1}{2^{l-1}} < m+1 - \frac{1}{2^{l-1}}$$

まとめると, $m \leq 2^{101-l} - \frac{1}{2^{l-1}}$ かつ $m > 2^{101-l} - 1$ となり, これを満たす整数 m は

存在しない。これより, $a_l = m$ となる確率は, 整数 N の個数に注目して,

$$\frac{1}{2^{100}} \sum_{k=1}^l \{2^{k-1}(m+1) - 2^{k-1}m\} = \frac{1}{2^{100}} \sum_{k=1}^l 2^{k-1} = \frac{1}{2^{100}} \cdot \frac{2^l - 1}{2 - 1} = \frac{2^l - 1}{2^{100}}$$

条件から, $\frac{2^l - 1}{2^{100}} \leq \frac{1}{100}$ より, $2^l \leq \frac{2^{100}}{100} + 1 = \frac{128}{100} \cdot 2^{93} + 1 = \frac{32}{25} \cdot 2^{93} + 1$ となり,

$$l = 1, 2, 3, \dots, 93$$

よって, $1 \leq l \leq 93$ のとき $0 \leq N \leq 2^{100} - 1$ に含まれ, $l \geq 94$ のとき $N > 2^{100} - 1$ となることから, 求める正の整数 m の条件は,

$$2^{100} - 1 < 2^{93} m$$

すると, m の最小値は $m > 2^7 - \frac{1}{2^{93}}$ より, $m = 2^7 = 128$ である。

[解 説]

(1)(2)は実験で具体的に計算すればよいだけですが, それをベースにした(3)の設問はかなり難度が高く, 記述も容易とはいえないものになっています。